年頭にあたり

皆さん、新年おめでとうございます。

昨年世界では、イラク、シリアの戦争にテロが続き、日本人も犠牲になったバングラディッシュ事件。年末のドイツトラックテロ、トルコの大使射殺、血なまぐさいニュースが続きました。政治の世界は台湾の政権交代から始まり、フィリピンも新大統領、イギリスもEU離脱でメイ新首相。アメリカではトランプ新大統領と波乱を予感させるものでした。かつてのグローバリズムの旗手のような国が、一転反グローバルの旗を振っています。

ところで、当社は昨年度五四期、九月の決算で三九億二千四百万の売上げでした。これは前年より約八千万円多い数字で約二%の増です。これで十二期連続増収となります。残念ながら増収増益とはいきませんが、収入だけは十二年間確実に増加してまいりました。これも皆さんが各現場、持ち場で頑張ってくれたからです。改めて御礼申し上げます。

その結果、現場も増えました。人も増えました。現在は冬場でホテル関係の人が増えるので、一五〇〇名は上回っていると思います。十二年間の平均増加率は三%位ですが、これが十二年も続くと売上げは約一・五倍になります。額にすると十四億円増えています。人も一〇〇〇人が一五〇〇人ですので一・五倍です。三%位で一・五倍になるのは成長率が複利計算だからです。「継続は力なり」と言う言葉を実感として感じます。

これまで私たちは売上目標とか、利益目標とかを言わずに来ました。当社は創業以来六十年間、ずっとそうやってきました。と言っても売上げも利益もいらないと思っている訳ではありません。真面目に良い仕事をやっていけば、それらは自然についてくるものと思っているからです。売上げも利益も仕事をすることの結果であって、目的ではないのです。押し売りのようにむりやり作った売上げは意味がないと思います。あるいはダンピングによってあげた売上げも同様です。

官公庁の入札が誰でも参加できる一般競争入札となり、「安かろう悪かろう」が横行するようになり、同業者で「一般競争専門業者」のような人が出てきました。そういった会社は全国で金額の張る官公庁物件を安い価格で落札するので、売上げはどんどん上がります。毎年倍々ゲームなどざらです。

当然そういった会社は赤字になりますので倒産します。その結果、契約の中途放棄、賃金の未払い、仕入れ資機材の未払いも発生します。どうせ契約の中途解約も平気なのですから、その前はろくに仕事はしません。給料だって払わないので従業員も働きません。その結果多くの人に迷惑をかけます。

普通の人にとって、そのようなやり方は信じがたい事でしょう。そのような詐欺のようなやり方が通用する世の中なのかと不思議に思います。それは当然の感覚ですが、残念ながら世界中でそのような事がはびこっています。大はエンロンから小は某ビルメンまで、事例には事欠きません。詐欺は単純で大きいほどわかりにくいのです。

営業活動でのつい言ってしまうオーバートークから、犯罪的詐欺までの距離は大きなものがありますが、繋がってはいるのです。「取り組んだら殺されても離すな。目的達成までは」などと上司から言われたら、つい出来もしない事を言ってしまうかもしれません。

代表取締役社長
鈴木英介



私たちのようなサービス産業で、売上げを上げたければダンピング受注すれば簡単です。また利益を上げようと思えば仕事の手を抜けばよいのです。そのように意識しなくとも、売上げや利益だけを言われれば自然にそうなります。だからあえてそれを言わないのです。適正な料金で、良い仕事をすれば結果として売上げも利益も上がります。それがこれまでの当社のやり方です。

成長率は低くて良いのです。しかし確実に前年より前に進んで行かなければなりません。

私たちが居る場所は、多くの人が入り乱れて働いたり、お金のやり取りをしたりする「市場」です。誰かがそこからお金を得るには、必ず出す人がいます。何か仕事をしたり、物を提供したりしてその対価を受け取ります。そしてその約束をします。物々交換では手間がかかるからです。それを契約と言います。それが無数に集まったものが経済社会です。そこで私達は活動をしているわけです。競争者も沢山います。

丁度、大海原を漕ぎだす船に似ています。波も風もある以上、それを乗り越えて進まなければなりません。そのためには船を前に向けなければなりません。後ろを向いていたら逆風を受け岩礁に叩きつけられて沈没してしまうかもしれません。

そのために風はどちらから吹いているか、海流の流れはどうなのかを知る事が一番重要です。つまり情勢分析です。そこで前後が分かれば、皆が同じ方向に向く必要があります。なぜなら私達の「新潟ビルサービス丸」は鉄や木でなく、人で出来ているからです。

この「さわやか」の表紙の文字は「人が大」と書いてあります。本来の「爽」は中が「メ」四つです。皆さん気付いていたでしょうか。ちなみにこの文字は私が考えたわけではなく、私の入社前からありました。

現在の新潟の同業で一五〇〇名の人のいる会社は当社しかありません。いわば当社は大型船です。皆が前を向き力を合わせれば、どのように海が荒れても乗り越えて行けます。今年も力を合わせてまいりましょう。